

発達障害の支援サービス機能の簡易実用評価
－その2：就学から就労・自立前まで－の試案

研究分担者 小林 真理子 山梨英和大学 人間文化学部
研究協力者 中嶋 彩 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室
こころのサポートセンターネストやまなし
菊池 恵 山梨県教育委員会
有泉 風 こころのサポートセンターネストやまなし
主任研究者 本田 秀夫 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室

本研究は、各自治体が地域における発達障害の支援体制の中で備えておく必要のある支援サービス機能を整理し、点検を行うためのツールとして「発達障害の支援サービス機能の簡易実用評価」（Quick and Practical Assessment of Support Service functions for individuals with Neurodevelopment disorders：Q-PASS）」における就学から就労・自立支援までの作成を目的とする。このツールは、臨床心理実践家8名の合議制質的分析方法を用いて、支援サービス機能の整理・分析により素案を作成した。その素案について、学齢期の発達障害児サービスに詳しい保護者・教育関係者・福祉関係者の3名に対しヒアリング調査を実施し、ツールの事項精査を実施した。

その調査の結果、支援段階については、「V就学・進学以降段階」、「VI学校生活段階」、「VII自立・就労準備段階」の3段階を、支援機能種類については、「本人支援」、「家族支援」、「支援者支援得」「一般啓発支援」の3つを大分類としたツールを開発した。なお、このツールを『発達障害児の支援サービス機能の簡易実用評価』part2とし、『発達障害児の支援サービス機能の簡易実用評価』part1 I～IV段階の気づきから診断前までについては、令和5年厚生労働科学研究において、報告している。

A 研究目的

発達障害児者に対する自治体の支援体制整備は、法制度に基づいた支援サービス機能の組み合わせによって展開されている。しかし各サービスの役割分担や支援内容などは、必ずしも明文化されていないことも多く、各自治体や事業者に委ねられている部分がある。そこで令和3年度厚生労働科

学研究において、発達障害児の支援施策を概観し、支援サービス機能を抽出、整理を行い『発達障害児の支援サービスマップ』を作成した。そして『支援サービスマップ』を基に支援サービス機能の現状と課題を分析・整理し、それに基づき全国自治体にアンケート調査を実施し、地域特性に応じた発達障害児の支援について検討した。

この調査研究により、自治体ごとに、発達障害の支援に工夫や課題がみられることを明らかにした。そこで各自治体が発達障害の支援体制を考える上で、各地域において実施されている支援サービス機能を明確にしていくことが、より実態にそった支援の向上につながると考え、令和5年厚生労働科学研究において、「発達障害児の支援サービス機能の簡易実用評価（Quick and Practical Assessment of Support Service functions for individuals with Neurodevelopment disorders：Q-PASS）」（2023）を作成し、気づきから診断までの部分を part1 として報告をした。

以上をふまえ本研究では、『発達障害児の支援サービス機能の簡易実用評価』の就労前までの部分を Part2 として素案を作成をすることを目的とする。

B 方法

1) 就学期から就労前までの支援サービス機能の抽出と作成

発達障害児のための支援サービス機能の評価について、発達障害児とその家族に関わりが深い臨床実践家8名の合議制による質的研究方法を用いて、抽出された発達障害児支援のサービス機能の整理、分析を行い、素案を作成した。

① 作成期間：2023年4月～10月の5回（各回3時間）

② 作成メンバー：

発達障害のある児童とその家族に関わりが深い臨床実践家6名

- ・60代 大学教員（公認）心理師 臨床経験 25年以上
- ・60代 大学教員 児童精神科医
- ・50代 障害児支援施設管理者 公認

心理師 25年以上

- ・50代 特別支援学校教員 臨床経験 25年以上
- ・40代 障害児支援施設管理者 公認心理師 15年以上
- ・40代 障害児支援施設管理者 公認心理師 15年以上
- ・40代 大学教員 教育心理学教員 公認心理師 15年以上
- ・20代 障害児支援施設管理者 公認心理師 5年以上

③ 作成方法

合議制質的研究方法を用いて作成。

2) 「支援サービス機能の簡易実用評価：Q-PASS（素案）」の事後精査のための試行

学齢期の発達障害児サービスについて詳しい保護者・教育関係者・福祉関係者の3名に対し、本研究にて作成した就学から就労・自立前までの「支援サービス機能の実用評価：Q-PASS part 2」の記入を依頼した。その後事項精査のためのヒアリングを実施した。（別紙「支援サービス機能の簡易実用評価 Q-PASS（素案）」）

① 試行期間

2023年12月～2月に、3名に実施（各回2時間程度）

② 調査対象者

縁故法により、学齢期の発達障害児サービスについて詳しい3名を選択。

※今回は3名であるため、倫理審査委員会への提出は実施していない。尚、個人や団体が特定されるような回答は、アルファベット表記をした。記載する結果表は、各対象者に確認していただき報告書への記載について許可を

得た。

- ・ **学齢期以降の発達障害児の保護者 40代**：20歳のAと中3のBの子どもがいる。数年前より民間の学習塾や放課後の児童の居場所を確保する活動等に取り組んでいる支援者でもある。
- ・ **教育関係者 50代**：教育行政職3年、特別支援教育教員15年以上、特別支援学校では担任や地域支援の担当を行っている。
- ・ **福祉関係者 30代**：社会福祉士5年、基幹相談支援センターにて5年、思春期、成人期の発達障害者の支援を行っている。

③ 調査方法

支援サービス機能評価票へ記入を依頼する。その後、結果にそって、確認を目的としたヒアリング調査を実施。

C 結果

1) 就学から就職前までの支援サービス機能の分類、整理

(1) V～VII段階の設定

Q-PASS part 1では、気づきの段階から直接支援までを、I段階からIV段階に設定し、「I事例化前段階」「II事例化・スクリーニング段階」「IIIつなぎ支援段階」「IV直接支援段階」に設定し、主に乳幼児にあるサービス支援機能を基準に作成した。そして学齢期になっても診断と直接支援にむけての支援は必要であることから、小学校入学後も利用できるよう支援サービス機能を精査し、作成した。

本報告は、就学期から就労前までをV段階からVII段階に設定した。V段階は、「V就学・進学移行支援段階」とし、小学校へ

の就学や進学といった支援環境の移行のための支援サービス機能を想定した。VI段階は、小学校から高校時代の18歳前の児童年齢を想定して、「VI 学校生活段階」とした。その後、学生生活を終え、自立に向かう段階として、就労の準備の段階を想定しているが、就労だけではなく、就労にかかわる一定の役割がある所属の確保、選択、決定のための準備の時期として、「VII 自立・就労準備段階」とした。

各段階において、年齢に問われず支援が求められる段階に必要な機能が確認、検討できるよう設定した。

(2) 支援種類の設定

I段階からIV段階は、『本人支援』『家族支援』『支援者支援』『一般啓発支援』の4つの大分類を設定した。乳幼児期は、保護者の役割はとりわけ重要であるため、保護者への支援は必須となる。また子どもが所属する保育所等における保育士等の支援者への支援は、子どもの特性の理解が深まることにより、支援者の不安の軽減や支援の質の向上が見込まれる。そして理解が深まることは、子どもの成長に応じた生活環境の調整がすすみ、よりインクルーシブな教育を促進していくことにつながるであろう。

V～VII段階においても、同様に『本人支援』『家族支援』『支援者支援』『一般啓発支援（I～IV段階と同様に支援の継続を想定し、省略）』と4つの大分類を設定した。

次に、中分類として、全段階を通して『本人支援』については、＜アセスメント＞と＜直接支援＞、『家族支援』については、＜つなぎ支援＞と＜心理的支援＞『支

援者支援』については、＜コンサルテーション＞と＜連携＞の項目を設定した。

(3) 具体的な支援機能

①「V 就学・進学移行支援段階」

■『本人支援』

<アセスメント>
a)スクリーニング(就学時健診,入学審査等)
b)専門的アセスメントⅢ (就学-進学先決定のための心理検査等情報収集)
c)進学先決定の見極め (学校見学,情報収集など)
<直接支援>
d)進学先の情報収集・体験
e)進学に向けての親・子グループ支援

<アセスメント><直接支援>

就学・進学を迎えるにあたり、本人に適切な就学先の決定のためのアセスメントが必要となる。学校生活を送るにあたり、集団生活を過ごすための健康面や情緒面等のアセスメントは重要だが、とりわけ学習面の把握をすることが強く求められる。

そして進学先についての情報収集や学校見学、さらには実際にプレスクールやオープンスクールといった学校体験をするなどの情報は、本人とその家族にとって、就学・進学への進路選択の不安は、軽減される。

■『家族支援』

<つなぎ支援：入学後支援のガイダンス>
f)教育・福祉サービス等への『つなぎ』の支援
<心理的支援>
g)家族への進学先のガイダンスと心理教育

<つなぎ支援><心理的支援>

家族に対して、市町村教育委員会等進学先との相談や家族に向けての就学のガイダンスが行われることは、家族が適切な進路

の情報を得ることができ、子どもに適した生活環境を整えるために大切な支援となる。

■『支援者支援』

<コンサルテーション>
h)就学・進学に向けてのスクリーニングとアセスメントのコンサルテーション
<連携>
i)『移行』の支援(就学先への引継ぎ)

<コンサルテーション><連携>

子どもが所属する機関の支援者は、次の就学・進学先に向けて、変わらぬ学校生活が過ごせるよう、適切に子どもの状態や対応方法、その他必要な情報を引き継ぐことが必要となる。そのため集団生活場面における子どもの現状のアセスメントや助言は、集団生活場面の移行に向けて、引継ぎがしやすくなるであろう。

②「VI 学生生活段階」

■『本人支援』

<アセスメント>
a)発達支援(療育)のためのアセスメント
<直接支援(発達支援(療育)・教育)>
【生活領域】
b)健康管理(服薬,食事,睡眠)
c)心身の発達保障(認知,運動,情緒等)
d)日常生活(ADL)スキルの向上
e)社会生活スキルの向上
【教育領域】
f)教科学習指導(基礎学習,教科学習,塾等)
g)集団生活の適応(特別支援学級,通常学級他)
h)対人関係スキルの獲得
i)教育・心理相談
【余暇領域】
j)余暇活動(習い事等)
k)見守り・居場所支援(児童館他)
l)地域交流の機会の提供
<心理的支援>
m)自己表現のための心理的支援

- | |
|--|
| n)自己理解のための心理教育
(告知,特性の理解)
o)思春期心性、二次障害についてのカウンセリング |
|--|

<アセスメント>

子どもの主たる活動の場は、学校であるが、その他、家庭での生活や放課後等の余暇の時間やコミュニティで過ごす生活があり、一段と活動の幅は、広がっていく。

そこで、学校や療育（発達支援も含む）支援のために活用できる本人のアセスメントが必要となる。

<直接支援>

成長にともない小学校から高校へと活動の場が広がっていく学校生活の時期に【生活領域】【教育領域】【余暇領域】において、支援の課題も広がっていく。そこで本人の成長に寄り添いながら、それぞれの支援が開始されていく。

【生活領域】

成長にともない日常生活の変化やストレスといった影響を受けやすくなるため、家庭では、子どもの特性やペースに応じた心身の発達の保障がされているかを配慮し、服薬、食事、睡眠などの健康管理が、継続して求められていく。そして認知、運動、情動といった心身の発達を保障しつつ、日常生活（ADL）スキルや社会生活スキルの向上をめざす。

【教育領域】

学校では、主に教科学習指導、集団生活の適応等が課題となりやすい。例えば、コミュニケーションスキルの獲得状況の度合いは、クラス内の適応、友人関係の形成、困り感を伝えることなど、学校生活を始めた集団生活の様々な場で影響をもたらしてしまう。

そのため対人関係スキルに支援が必要かどうかを見極めながら、必要に応じて、教育・心理相談の利用を促せるように準備しておく必要がある。

【余暇領域】

余暇領域においては、この時期は家庭でも学校でもない新しい場（サードプレイスともいえる）が増えていき、同世代との同じ趣味や関心をもった仲間と集う余暇活動や地域交流の機会が多く出現するようになる。コミュニケーションを自発的に築くことが苦手な子どもの場合は、支援者側が提供していく工夫が重要となる。

またアクティブに活動する場だけではなく、安心できる場や所属している実感がほどほどに持てる程度の見守られている場・居場所への支援も必要となってくる。

<心理的支援>

学齢期は自らの発達障害についての告知や、特性の理解によって、自己理解がすすんでいく。しかし発達障害児は、自分を表現することが苦手であったり、個人的な障害の話をもどのように相談していけばよいか等戸惑う子どもたちは多い。そのため安心して話すことができる場や人を確保しておくことが、大切な支援となる。

さらに思春期になると発達障害のある子どもたちは自身への違和感や周りとのズレ等に圧倒される時期と重なり、思春期心性や二次障害についてのカウンセリングは欠かせない。そのため思春期前に相談しやすい大人との関係を築いておくことは、多くの悩みや葛藤を持つ思春期の時期に有効である。

■『家族支援』

<心理的支援>

- p) 家族への子どもとの関わり方の心理教育
(思春期の対応等)
- q) 家族への心理カウンセリング
(二次障害、家族内不和等)

<心理的支援>

気づき・発見から就学や進学に移行の支援を経て、家族への支援は、ひと段落する時期である。しかし子どもが成長し、思春期を迎えると新たに思春期の子どもへの対応という課題が生じてくる。そこで思春期の子どもとの関わり方について心理教育が準備される必要がある。

また、発達障害の子どもは、変化に弱くストレスを受けやすいため、子育てを巡る家庭内での意見の相違や不和、本人に対する不適切な対応や発達障害そのものの特性による影響などが要因となり、子どもに二次障害をきたすことがある。この場合、子どもだけでなく、家族へも手厚い心理カウンセリング（場合によっては医療受診も必要）が必要となってくることもある。

■『支援者支援』

<コンサルテーション>

- r) 在籍機関への専門的理解のコンサルテーション
(環境調整、インクルーシブに向けて)

<連携>

- s) 関係者会議の開催
(情報共有、モニタリング等)

<コンサルテーション><連携>

学校・居場所等において、環境調整やインクルーシブに向けてのコンサルテーションが必要となる。また情報共有や現在の支援が順調に進んでいるかといったモニタリングなど関係者会議を通しての連携は、続

けていく。

③「Ⅶ 自立・就労準備段階」

■『本人支援』

<アセスメント>

- a) 専門的アセスメントⅣ
(進路選択のための評価)
- b) 進路先決定の見極め(見学、情報収集など)

<直接支援(自立のための支援)>

【生活領域】

- c) 健康管理(服薬、食事、睡眠)
- d) メンタルヘルスの維持
- e) 日常生活(ADL)スキルの獲得
- f) 社会生活スキルの獲得
- g) 対人関係スキルの獲得

【就労(準備)領域】

- h) 自立(就労)の基本スキル
- i) 進路先の情報収集

【余暇領域】

- j) 余暇活動(生活の充実)
- k) 居場所支援(人とのつながり)

<心理的支援>

- l) 自己表現のための心理的支援
- m) 自己理解のための心理教育
(進路選択のための自己理解)
- n) 思春期心性、二次障害についてのカウンセリング

<アセスメント>

この時期は進学なのか、就労ならば一般雇用なのか、障害者雇用なのか、あるいは、福祉就労なのか等多様な方向への進路が考えられる。そのためまずは自分にはどのような選択肢があるのかを検討するために、専門的なアセスメントが役立つ。それらを基に、自分に合った進路について、進路先の情報収集や見学などを行い、自分に合った進路についての選択肢を得ていき、見極めながら最終的に自分で決定することが大切となる。

<直接支援(自立のための支援)>

【生活領域】

自立・就労を考えたこの時期は、自立生活に向けて、自分の能力に合った範囲で、健康管理ができるよう支援をしていく。さらには、メンタルヘルスを維持しながら、ADL やソーシャルスキル、コミュニケーションスキルといった具体的なスキルの獲得が必要となるでしょう。

【就労（準備）領域】

教育支援は継続されているが、支援サービス機能では、次の段階の支援機能が必要であると考え、【教育領域】から【就労（準備）領域】とした。就労・自立に向けての支援サービス機能は、図1の、就労準備性ピラミッド（例えば2021前原ら）を参考にした。就労準備ピラミッドは、就労に向けて必要とされる能力を下から「健康管理」「日常生活管理」「対人技能」「基本労働習慣」「職業適性」という順序で構成されており、特に「健康管理」や「日常生活管理」が重要とされている。そのため就労についての基本的なスキルとは、就労に関する特別な能力ではなく、健康を維持しながら、勤務時間を守り、自分で移動手段を確保し、何かあった時に自分で連絡ができるといった生活上のごく当たり前に求められてしまうスキルの獲得をしていること大切であろう。そして進学先の見学やオープンスクールなどの体験、また実際に簡単なアルバイトなどの職業体験や収入を得る体験などを体験しながら、進路先について情報を得ておくことは、就労や自立をより身近に感じることができ、本人とその家族にとって、就学・進学への進路選択の不安が軽減される。

<心理的支援>

思春期心性への対応や新しい進路先に向

けての不安などが中心ではあるが、自己理解が進む中、心理的支援の課題は、より個別性が強くなる。

■『家族支援』

<つなぎ支援：支援サービスのガイダンス>

0) 福祉サービス等への『つなぎ』の支援
(医療、福祉サービス・手当・年金等の利用の確認) →本人支援へ

<心理的支援>

p) 家族への自立に向けてのガイダンスと心理教育 →本人支援へ
q) 家族主体のカウンセリング
(親・子の自立の支援等)

<つなぎ支援：支援サービスのガイダンス>

この段階に至ると、家族主体の生活から社会でどう生きるかという社会生活への『つなぎ』の支援が必要になる。しかし家族は後方支援に回り、実際には、本人が支援者と相談しながら、自立に向けて、社会資源の利用について等、自分自身で決定できるよう支援していく必要がある。

そこで家族は、子どもがどう自立するかをイメージし、子どもが利用できる医療や福祉サービス・制度について、把握できるよう家族へガイダンスをしておくことが課題となる。それにより子ども自身が支援を利用しやすいようを促していくことが求められる。

<心理的支援>

これまでの家族への支援は、子どもにどう関わればよいか、子どもを巡って家族はどう振る舞えばよいかといった子どもを育てる親をどう支えるかが課題であった。

この段階になると自立する子どもとの関わり方などの心理教育はあるが、子どもの自立に向け、家族から離れていくとともに、子ども主体ではなく、親（家族）という役

割から少し解放され、親自身の新たな生き方について考える親（家族）主体のカウンセリングに心理的支援はシフトしていく。

■『支援者支援』

<コンサルテーション>

r)在籍機関への専門的理解のコンサルテーション
(進路先に向けての評価の助言)

<連携>

s)『移行』の支援（進路先への引継ぎ）

保健・福祉関係者から受けたバトンを学生生活時代は学校関係者が握っているが、社会に出ると再び、福祉（就労支援）関係者にバトンを渡すことになる。その際進路先に向けての評価を受けての助言を受け、次の進路先にその説明を行うためのよりよい引継ぎができるよう支援者を援助する必要がある。

以上のことから表1を作成した。

2) 支援サービス機能の簡易実用評価（素案）の事後精査のためのヒアリング

（各調査の評価表は、別紙）

（1）記入者：保護者

・記入項目について不足はないものと思われる。

・学齢期以前においては、発達障害としての理解が保育士や保健師もしっかりと獲得されておらず、そのため、「V就学・進学移行段階」における支援者支援はほとんどなかったと考えられる。

・落ち着いたなさやさまざまな日常生活のトラブルはあり、保護者としては心配していたものの、その状況をなかなか専門家に説明できずにいた。このような時期、先輩保護者のような人がいて、同じ視座から一緒に話し合いに同席してもらえたら安心したと思う。

・児童精神科医によって、学齢期でのAへの発達特性の説明をしてもらった。この関わりはA自身の自己理解に大きな役割を果たしていると思われる。

・保護者の子育て中の混乱や心労に対してのサポート、サービスや制度、進路などの情報提供などの家族支援は重要である。

・Aは、ほぼ不登校状態であり、放課後等デイサービスが拠り所となっていた。Aが通所する放課後等デイサービスは、生活・余暇・就労準備領域など多彩な支援がなされていた。現状、放課後等デイサービスは、支援内容・質ともさまざまである。不登校（傾向）状態を呈している発達障害児には、放課後デイサービスの持つ機能は重要となる。

・進学前後、就労前後をつなぐ機関（者）が重要である。

・18歳以降で、不登校・ひきこもり状態の発達障害児者の支援は整備されていない。

（2）記入者：教育関係者

・記入事項について不足はないものと思われる。

・「VI学生生活段階」「VII自立・就労前段階」において、ほとんどといってよいほど、家族支援の機能が見当たらないことが改めてわかった。

・特別支援学級や通級の利用が開始されると本人への支援が手厚くなされるのだが、特別支援学級や通級を利用しない場合は、生活領域・教育領域についてほとんどといってよいほど、支援機能がなくなる。

・学校種や各学校単位で、発達障害支援の考え方が大きく違うことがわかる。また、特別支援学校においては、卒後の進路について手厚い準備と支援がなされる。そのた

め、少子化で生徒数が減少している現在においても、特別支援学校での支援を希望してくる保護者（児童・生徒）は多く、児童・生徒数は微増している現状である。

・地域における他領域の支援機能や社会資源などを、教育関係者は精通していないことが多い。そのため、地域の教育事務所などに、特別支援教育に関わってきた教員を配備することが重要である。

(3) 記入者：福祉関係者

まとめ（記入者：福祉関係者）

・記入事項について不足はないものと思われる。

・「V就学・進学移行段階」は保健師による関わりが多い。

・就学を迎えると、保育所等訪問支援のニーズが学校によって違い、拒否されることもある。

・放課後等デイサービスは、各機関により支援内容、配置されている職種が大きく異なる。

・二次障害には医療機関、家庭内不和などの家庭環境の問題には子育て支援・児童福祉関連機関を利用することとなる。

・『Ⅶ自立・就労準備段階』においては、家族への心理的支援は、他の段階と比べて減少する。

D 結論

発達障害児のための支援サービス機能の評価について合議制による質的研究方法により「支援サービス機能の簡易実用評価：Q-PASS（素案）」を作成した。

その素案の記入事項の精査のため、3名にヒアリング調査を行い、記入事項に不足がみられないとの回答を得た。

また、このQ-PASSを利用することにより、各支援段階における支援サービス機能の現状把握と同時に、課題の明確化、施策提案への可能性が示唆された。

E 健康危険情報 該当なし

F 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

H 引用文献・参考文献

引用文献

参考文献

・前原和明（編著）就労系障害福祉サービスにおける職業的アセスメントハンドブック 2021年4月1日発行 令和2年度厚生労働科学研究費補助金（20GC1009）研究報告書

片山知哉 「就労準備性と発達障害・精神障害」発行 山梨県立こころの発達総合支援センター 平成29年12月

本田秀夫・日戸由刈 アスペルガー症候群のある子どものための新キャリア教育 金子書房 2013

梅永雄二 「発達障害の子のライフスキルトレーニング」健康ライブラリー 2015

・障害のある子どもの放課後保障全国連絡会 子どもたちのゆたかな育ちのために放課後等デイサービスハンドブック かもがわ出版 2022

・市川裕二・緒方直彦・宮崎英憲（企画編集）特別支援教育における学校・教員と専門家の連携

ジアース教育新社 2022

・奥田健次（編著）教師と学校が変わる学

校コンサルテーション 金子書房 2018

・神尾陽子（編著）発達障害のある子のメンタルヘルスケア—これからの包括的支援に必要なこと— 金子書房 2021

・小野昌彦（編著）発達障害のある子/ない子の学校適応・不登校対応 金子書房 2017

・加藤浩平（編著）発達障害のある子ども・若者の余暇活動支援 金子書房 2021

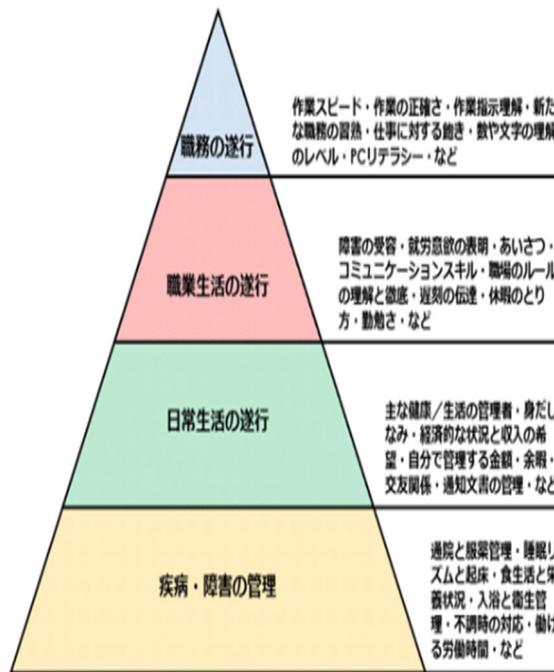


図1 就労準備性ピラミッド

表1 発達障害の支援サービス機能簡易実用評価 —就学から就労・自立前—

V 就学・進学移行段階		VI 学校生活段階		VII 自立・就労準備段階			
<p>本人支援</p> <p>□a) スクリーニング(就学時健診、入学審査等)</p> <p>□b) 専門的アセスメントⅢ (就学・進学先決定のための心理検査等情報収集)</p> <p>□c) 進学先決定の見極め (学校見学、情報収集など)</p> <p>□d) 進学先の情報収集、体験</p> <p>□e) 進学に向けての親・子グループ支援</p> <p><直接支援></p>	<p>□a) 発達支援(療育)のためのアセスメント</p> <p><直接支援(発達支援(療育)・教育)></p> <p>(生活領域)</p> <p>□b) 健康管理(服薬、食事、睡眠)</p> <p>□c) 心身の発達保障(認知、運動、情緒等)</p> <p>□d) 日常生活(ADL)スキルの向上</p> <p>□e) 社会生活スキルの向上</p> <p>□f) 教科学習指導(基礎学習、教科学習、塾等)</p> <p>□g) 集団生活の適応(特別支援学級、通常学級他)</p> <p>□h) 対人関係スキルの促進</p> <p>□i) 教育・心理相談</p> <p>□j) 余暇活動(習い事等)</p> <p>□k) 見守り・居場所支援(児童館他)</p> <p>□l) 地域交流の機会の提供</p> <p><心理的支援></p> <p>□m) 自己表現のための心理的支援</p> <p>□n) 自己理解のための心理教育(告知、特性の理解)</p> <p>□o) 思春期心性、二次障害についてのカウンセリング</p>	<p>□a) 専門的アセスメントⅣ(進路選択のための評価)</p> <p>□b) 進路先決定の見極め(見学、情報収集など)</p> <p><直接支援(自立のための支援)></p> <p>(生活領域)</p> <p>□c) 健康管理(服薬、食事、睡眠)</p> <p>□d) スクールレベルの維持</p> <p>□e) 日常生活(ADL)スキルの獲得</p> <p>□f) 社会生活スキルの獲得</p> <p>□g) 対人関係スキルの獲得</p> <p>[就労(準備)領域]</p> <p>□j) 自立(就労)の基本スキル</p> <p>□k) 進路先の情報収集</p> <p>[余暇領域]</p> <p>□h) 余暇活動(生活の充実)</p> <p>□l) 居場所支援(人とのつながり)</p> <p><心理的支援></p> <p>□i) 自己表現のための心理的支援</p> <p>□m) 自己理解のための心理教育 (進路選択のための自己理解)</p> <p>□n) 思春期心性、二次障害についてのカウンセリング</p>	<p><つなぎ支援:支援サービスのガイダンス></p> <p>□f) 教育・福祉サービス等への『つなぎ』の支援</p> <p>□g) 家族への進学先のガイダンスと心理教育</p> <p><心理的支援></p> <p>□p) 家族への自立(就労)のためのガイダンスと心理教育</p> <p>□q) 家族主体のカウンセリング(親・子の自立の支援等)</p> <p><コンサルテーション></p> <p>□r) 在籍機関への専門的理解のコンサルテーション (進路先に向けての評価の助言)</p> <p>□s) 『移行』の支援(進路先への引継ぎ)</p> <p><連携></p>	<p><つなぎ支援:支援サービスのガイダンス></p> <p>□0) 福祉サービス等への『つなぎ』の支援 (医療、福祉サービス・手当・年金等の利用の確認)</p> <p><心理教育・心理的支援></p> <p>□p) 家族への自立(就労)のためのガイダンスと心理教育</p> <p>□q) 家族主体のカウンセリング(親・子の自立の支援等)</p> <p><コンサルテーション></p> <p>□r) 在籍機関への専門的理解のコンサルテーション (進路先に向けての評価の助言)</p> <p>□s) 『移行』の支援(進路先への引継ぎ)</p> <p><連携></p>	<p><地域全体への啓発></p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>	<p><地域全体への啓発></p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>	<p><地域全体への啓発></p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>
<p>啓発</p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>	<p><地域全体への啓発></p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>	<p><地域全体への啓発></p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>	<p><地域全体への啓発></p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>	<p><地域全体への啓発></p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>	<p><地域全体への啓発></p> <p>□ 知識啓発(地域・家族)</p>		

表2 ヒアリング用紙

① 記入者：保護者 現在20歳のAと中3のBの発達障害児者の保護者（数年前より民間の学習塾や、放課後の児童の居場所を確保する活動などに取り組んでいる支援者でもある）

【 V 就学・進学移行段階 】

支援サービス機能		具体的支援（内容）
本人支援	<アセスメント>	
	a) スクリーニング	入学前健診
	b) 専門的アセスメントⅢ (就学先決定のための心理検査等情報収集)	C支援学校・学校相談担当の先生より、知能検査を実施（就学とは関係なく特性理解のため）
	c) 就学先決定の見極め (学校見学、情報収集など)	
	<直接支援>	
	d) 進学先の情報収集・体験	上記知能検査結果の際に情報提供あり。
家族支援	e) 就学に向けての親・子グループ支援	
	<つなぎ支援・支援サービスのガイダンス>	
	f) 教育・福祉サービス等への『つなぎ』の支援)	保健センター主催のD相談
支援者支援	<心理的支援>	
	g) 就学のための相談（就学先のガイダンス）	
	<コンサルテーション>	
	h) 就学に向けてのスクリーニングとアセスメントのコンサルテーション	
	<連携>	
	i) 『移行』の支援（就学先への引継ぎ）	

【 VI 学校生活段階 】

支援サービス機能		具体的支援（内容）
本人支援	<アセスメント>	
	a) 発達支援（療育）のためのアセスメント	E 医療福祉センター（医療型障害児入所施設を併設するクリニック） C 支援学校・学校相談
	<直接支援（発達支援（療育）・教育）>	
	【生活領域】	
	b) 健康管理（服薬、食事、睡眠等）	E 医療福祉センター（小児精神科） F 大学医学部附属病院
	c) 心身の発達促進（リハビリ、運動、情動統制等）	E 医療福祉センター（心理・OT） 民間の障害児の相談機関（有料）☞途中から放課後等デイサービス
	d) 日常生活スキルの獲得（ADL）	
	e) 社会生活スキルの獲得（ソーシャルスキル）	E 医療福祉センター（心理・OT） 民間の障害児の相談機関（有料）☞途中から放課後等デイサービス
	【教育領域】	
	f) 教科学習指導（基礎学習、教科学習、塾等）	個人塾（不登校傾向のため）
	g) 集団生活の適応（特別支援学級、通常学級他）	通級指導教室 適応指導教室
	h) 対人関係スキルの獲得	E 医療福祉センター（グループ活動）
	i) 教育・心理相談	スクールカウンセラー
	【余暇領域】	
	j) 余暇活動	地域のプログラミング教室 ピアノ教室（個人経営） 個人音楽療法教室 親の会のイベント
	k) 見守り・居場所支援（児童館他）	地域NPO主催の放課後の居場所支援
	l) 地域交流の機会の提供	地域育成会 地域の子ども会
<心理的支援>		
m) 自己表現のための心理的支援	E 医療福祉センター（心理） 放課後等デイサービス	
n) 自己理解のための心理教育（告知、特性の理解）	E 医療福祉センター（心理） 放課後等デイサービス F 大学医学部附属病院	
o) 思春期心性についてのカウンセリング	放課後等デイサービス	
家族	<心理的支援>	
	p) 家族への子どもとのかかわり方の心理教育（思春期の対応等）	E 医療福祉センター（心理・ペアレントトレーニング） 放課後等デイサービス

支 援		民間の療育支援機関（オンラインによる） 親の会主催の学習会
	q) 家族への心理カウンセリング （二次障がい、家族内不和等）	F 医療福祉センター（心理） 放課後等デイサービス スクールカウンセラー G 精神科クリニック
支 援 者 支 援	<コンサルテーション>	
	r) 在籍機関への専門的理解コンサルテーション （環境調整、インクルーシブに向けて）	圏域の障害者総合支援センター 県内の発達障害サポートマネージャー
	<連 携>	
	s) 関係者会議の開催(情報共有、モニタリング等)	圏域の障害者総合支援センター（相談員）

【Ⅶ 自立・就労前段階】

本人支援	<アセスメント>	
	a) 専門的アセスメントⅣ（進路選択のための評価）	放課後等デイサービス
	b) 就職先決定の見極め（見学、情報収集など）	放課後等デイサービス
	<直接支援（自立のための支援）>	
	【生活領域】	
	c) 健康管理（服薬、食事、睡眠等）	放課後等デイサービス F 大学附属病院
	d) 心身の発達促進（リハビリ、運動、情動統制等）	放課後等デイサービス
	e) 日常生活スキルの獲得（ADL）	放課後等デイサービス
	f) 社会生活スキルの獲得（ソーシャルスキル）	放課後等デイサービス
	g) 対人関係スキルの獲得	放課後等デイサービス
	【余暇領域】	
	h) 余暇活動（生活の充実）	放課後等デイサービス
	i) 居場所支援（人とのつながり）	放課後等デイサービス
	【就労（準備）領域】	
	j) 就労の基本スキル	民間の自立・就労支援の相談機関 （有料）
	k) 進路先の情報収集	民間の自立・就労支援の相談機関 （有料）
	<心理的支援>	
	l) 自己表現のための心理的支援	放課後等デイサービス
	m) 自己理解のための心理教育（告知、特性の理解）	放課後等デイサービス
n) 思春期心性についてのカウンセリング	放課後等デイサービス	
家族支援	<つなぎ支援・支援サービスのガイダンス>	
	o) 福祉サービス等への『つなぎ』の支援（医療・福祉サービス・手当・年金等の利用の確認）	放課後等デイサービス F 大学附属病院
	<心理的支援>	
	p) 就労のための相談（就労先決定のガイダンス）	放課後等デイサービス（家族支援）
q) 家族主体のカウンセリング（親・子の自立の支援等）	民間のカウンセリング機関（有料）	
支援者支援	<コンサルテーション>	
	r) 在籍機関への専門的理解コンサルテーション（進路先に向けて評価の助言）	
	<連携>	
	s) 『移行』の支援（進路先への引継ぎ）	

② 記入者：教育関係者 現在、3年目を迎える教育行政で特別支援教育を担当する教員（それまでは15年以上、特別支援学校で担任や地域支援の担当を行っている。）

【 V 就学・進学移行段階 】

	支援サービス機能	具体的支援（内容）
本人支援	<アセスメント>	
	c) スクリーニング	就学時健診
	d) 専門的アセスメントⅢ (就学先決定のための心理検査等情報収集)	就学時健診の再検査・追検査
	c) 就学先決定の見極め (学校見学、情報収集など)	市町村教育委員会と保健師等による園訪問 (年長児の把握と観察)
	<直接支援>	
	d) 進学先の情報収集・体験	市町村教育委員会との相談 学校見学（通常の学級 特別支援教育）
	e) 就学に向けての親・子グループ支援	一日入学 保護者説明会
家族支援	<つなぎ支援・支援サービスのガイダンス>	
	f) 教育・福祉サービス等への『つなぎ』の支援)	市町村教育委員会との相談（放課後等デイサービス等について紹介）
	<心理的支援>	
	g) 就学のための相談（就学先のガイダンス）	保護者対象の就学に向けた学習会（※リハビリや福祉機関が主催 参加は任意）
支援者支援	<コンサルテーション>	
	h) 就学に向けてのスクリーニングとアセスメントのコンサルテーション	市町村教育委員会での検討
	<連携>	
	i) 『移行』の支援（就学先への引継ぎ）	在籍園等から小学校への引継ぎ

【

【 VI 学校生活段階 】

支援サービス機能		具体的支援（内容）
本人支援	<アセスメント>	
	a) 発達支援（療育）のためのアセスメント	A 県版児童・生徒理解のためのシート 気になる児童の実態把握のための観点シート
	<直接支援（発達支援（療育）・教育）>	
	【生活領域】	
	b) 健康管理（服薬、食事、睡眠等）	学校内における毎日の健康観察
	c) 心身の発達促進（リハビリ、運動、情動統制等）	自立活動（通級による指導 特別支援学級）
	d) 日常生活スキルの獲得（ADL）	自立活動（通級による指導 特別支援学級）
	e) 社会生活スキルの獲得（ソーシャルスキル）	自立活動（通級による指導 特別支援学級）
	【教育領域】	
	f) 教科学習指導（基礎学習、教科学習、塾等）	教科学習 必要に応じた基礎学習
	g) 集団生活の適応（特別支援学級、通常学級他）	自立活動（通級による指導 特別支援学級）
	h) 対人関係スキルの獲得	自立活動（通級による指導 特別支援学級）
	i) 教育・心理相談	教育相談 SC による面談
	【余暇領域】	
	j) 余暇活動	学校内季節行事 学園祭 クラブ活動 部活動 放課後等デイサービス
	k) 見守り・居場所支援（児童館他）	学童保育 塾 放課後等デイサービス
	l) 地域交流の機会の提供	スポ少 地域の文化行事（祭り 子ども会など）
	<心理的支援>	
	m) 自己表現のための心理的支援	自立活動（通級による指導 特別支援学級） SC との面談
	n) 自己理解のための心理教育（告知、特性の理解）	自立活動（通級による指導 特別支援学級） SC との面談
o) 思春期心性についてのカウンセリング	SC との面談	
<心理的支援>		

家族 支 援	p) 家族への子どもとのかかわり方の心理教育 (思春期の対応等)	SCとの面談
	q) 家族への心理カウンセリング (二次障がい、家族内不和等)	SCとの面談
支 援 者 支 援	<コンサルテーション>	
	r) 在籍機関への専門的理解コンサルテーション (環境調整、インクルーシブに向けて)	市町村教育委員会 特別支援学校のセンター 的機能(教育相談 訪問支援 研修支 援) 県総合教育センター
	<連携>	
s) 関係者会議の開催(情報共有、モニタリング 等)	個別ケース会議 関係者会議 モニタリン グ会議	

【Ⅶ 自立・就労前段階】

	支援サービス機能	具体的支援（内容）
本人支援	<アセスメント>	
	g) 専門的アセスメントⅣ（進路選択のための評価）	高校の進路指導 卒業学年担当教員
	h) 就職先決定の見極め（見学、情報収集など）	高校の進路指導 卒業学年担当教員
	<直接支援（自立のための支援）>	
	【生活領域】	
	i) 健康管理（服薬、食事、睡眠等）	医療機関？
	j) 心身の発達促進（リハビリ、運動、情動統制等）	医療機関？
	k) 日常生活スキルの獲得（ADL）	自立活動（通級による指導）
	l) 社会生活スキルの獲得（ソーシャルスキル）	自立活動（通級による指導）
	g) 対人関係スキルの獲得	自立活動（通級による指導）
	【余暇領域】	
	h) 余暇活動（生活の充実）	部活動 学園祭
	i) 居場所支援（人とのつながり）	部活動 塾
	【就労（準備）領域】	
	j) 就労の基本スキル	実業高校での実習等
	k) 進路先の情報収集	インターンシップ 進路指導
	<心理的支援>	
	l) 自己表現のための心理的支援	SCとの面談？
	m) 自己理解のための心理教育（告知、特性の理解）	
	n) 思春期心性についてのカウンセリング	SCとの面談？
家族支援	<つなぎ支援・支援サービスのガイダンス>	
	o) 福祉サービス等への『つなぎ』の支援（医療・福祉サービス・手当・年金等の利用の確認）	
	<心理的支援>	
	p) 就労のための相談（就労先決定のガイダンス）	
	q) 家族主体のカウンセリング（親・子の自立の支援等）	
支援者支援	<コンサルテーション>	
	r) 在籍機関への専門的理解コンサルテーション（進路先に向けて評価の助言）	
	<連携>	
	s) 『移行』の支援（進路先への引継ぎ）	個別の教育支援計画（移行支援計画）

③ 記入者：福祉関係者 現在、5年目を迎える障害児相談支援を行う社会福祉士（それまでは、基幹相談支援センターにて5年間勤務 また現在、成人期の発達障害者の支援も行っている）

【V 就学・進学移行段階】

	支援サービス機能	具体的支援（内容）
本人支援	<アセスメント>	
	e) スクリーニング	就学時健診 就学相談
	f) 専門的アセスメントⅢ (就学先決定のための心理検査等情報収集)	教育センターの心理検査 療育手帳の判定 児童発達支援・保育園での行動観察 市町村の巡回相談 保育所等訪問支援
	c) 就学先決定の見極め (学校見学、情報収集など)	保健師による？
	<直接支援>	
	d) 進学先の情報収集・体験	保健師による？
家族支援	e) 就学に向けての親・子グループ支援	児童発達支援の学校説明会
	<つなぎ支援・支援サービスのガイダンス>	
	f) 教育・福祉サービス等への『つなぎ』の支援)	放課後等デイサービスの見学 学校見学 引継ぎの会議 先輩保護者への相談
	<心理的支援>	
支援者支援	g) 就学のための相談（就学先のガイダンス）	保健師フォロー 児童発達支援の就学相談会・親サロン
	<コンサルテーション>	
	h) 就学に向けてのスクリーニングと アセスメントのコンサルテーション	A市巡回相談 就学時健診 就学相談 (保健師) (計画相談支援専門員)
	<連携>	
	i) 『移行』の支援（就学先への引継ぎ）	引継ぎの関係者会議 情報提供書

【 VI 学校生活段階 】

支援サービス機能		具体的支援（内容）
本人支援	<アセスメント>	
	a) 発達支援（療育）のためのアセスメント	保育所等訪問支援 事業所内でのアセスメント
	<直接支援（発達支援（療育）・教育）>	
	【生活領域】	
	b) 健康管理（服薬、食事、睡眠等）	通院先の児童精神科・小児科 保健体育の授業
	c) 心身の発達促進（リハビリ、運動、情動統制等）	医療機関 放課後等デイサービス（運動特化型）
	d) 日常生活スキルの獲得（ADL）	放課後等デイサービス
	e) 社会生活スキルの獲得（ソーシャルスキル）	放課後等デイサービス
	【教育領域】	
	f) 教科学習指導（基礎学習、教科学習、塾等）	学校での授業 塾 家庭教師 放課後等デイサービス（学習特化型）
	g) 集団生活の適応（特別支援学級、通常学級他）	
	h) 対人関係スキルの獲得	放課後等デイサービス
	i) 教育・心理相談	SC 放課後等デイサービス（心理特化型）
	【余暇領域】	
	j) 余暇活動	社協サロン 放課後児童クラブ 放課後等デイサービス 図書館
	k) 見守り・居場所支援（児童館他）	児童館 放課後等デイサービス 支えあい活動
	l) 地域交流の機会の提供	特別支援学校と普通学校との交流教育 公民館行事 地区の活動 スポ少と放課後等デイサービスとの交流活動
	<心理的支援>	
	m) 自己表現のための心理的支援	放課後等デイサービス
	n) 自己理解のための心理教育（告知、特性の理解）	医療機関
o) 思春期心性についてのカウンセリング	放課後等デイサービス	
<心理的支援>		

家族支援	p) 家族への子どもとのかかわり方の心理教育（思春期の対応等）	発達（関連）セミナー 放課後等デイサービス 保健師対応
	q) 家族への心理カウンセリング（二次障がい、家族内不平等）	医療機関（小児科・児童精神科） 児童相談所 保健所 子育て支援関連機関
支援者支援	<コンサルテーション>	
	r) 在籍機関への専門的理解コンサルテーション（環境調整、インクルーシブに向けて）	教育委員会の巡回相談 市の巡回相談 保育所等訪問支援
	<連携>	
	s) 関係者会議の開催(情報共有、モニタリング等)	モニタリング 要保護児童対策地域協議会

【Ⅶ 自立・就労前段階】

	支援サービス機能	具体的支援（内容）
本人支援	<アセスメント>	
	m) 専門的アセスメントⅣ（進路選択のための評価）	高校の進路指導 卒業学年担当教員
	n) 就職先決定の見極め（見学、情報収集など）	高校の進路指導 卒業学年担当教員
	<直接支援（自立のための支援）>	
	【生活領域】	
	o) 健康管理（服薬、食事、睡眠等）	医療機関？
	p) 心身の発達促進（リハビリ、運動、情動統制等）	医療機関？
	q) 日常生活スキルの獲得（ADL）	自立活動（通級による指導）
	r) 社会生活スキルの獲得（ソーシャルスキル）	自立活動（通級による指導）
	g) 対人関係スキルの獲得	自立活動（通級による指導）
	【余暇領域】	
	h) 余暇活動（生活の充実）	部活動 学園祭
	i) 居場所支援（人とのつながり）	部活動 塾
	【就労（準備）領域】	
	j) 就労の基本スキル	実業高校での実習等
	k) 進路先の情報収集	インターンシップ 進路指導
	<心理的支援>	
	l) 自己表現のための心理的支援	SCとの面談？
	m) 自己理解のための心理教育（告知、特性の理解）	
	n) 思春期心性についてのカウンセリング	SCとの面談？
家族支援	<つなぎ支援・支援サービスのガイダンス>	
	o) 福祉サービス等への『つなぎ』の支援（医療・福祉サービス・手当・年金等の利用の確認）	
	<心理的支援>	
	p) 就労のための相談（就労先決定のガイダンス）	
	q) 家族主体のカウンセリング（親・子の自立の支援等）	
支援者支援	<コンサルテーション>	
	r) 在籍機関への専門的理解コンサルテーション（進路先に向けて評価の助言）	
	<連携>	
	s) 『移行』の支援（進路先への引継ぎ）	個別の教育支援計画（移行支援計画）